



**アースデイ東京 2016**  
2016年4月23、24日  
代々木公園



**METROCK TOKYO 2016**  
2016年5月21、22日  
新木場 若洲公園



**第8回 モノマチ**  
2016年5月27、28、29日  
ものづくり館 by YKK



**グローバルフェスタJAPAN 2016**  
2016年10月1、2日  
お台場センタープロムナード



**井の頭アースデイマーケット**  
2016年11月19日  
井の頭公園



**むさしの国際交流まつり 2016**  
2016年11月13日  
武蔵野国際交流協会（スイングビル）

## 平成28年度事業報告

特定非営利活動法人 アクション

### IN THE PHILIPPINES



フィリピンでは、昨年実施したカラーランに続き、ファンドレイジングイベントとして2016年11月20日にバブルランを実施しました。当日は日頃からチカラプロジェクトに参加している子ども達や、関係施設の職員、地域住民など600名もの参加者が集まり、大盛況のイベントとなりました。ファンドレイジングのために開催したバブルランですが、当団体の活動を多くの方に知って頂く機会にもなりました。また、チカラプロジェクトからは、マッサージブースや空手、ダンスの発表の場なども設けることができ、子ども達が日頃の成果を発表する機会にもなりました。

# 代表挨拶



いつも当団体に対するご支援、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。スタッフを代表してお礼申し上げます。2016年は、フィリピンでは新しい大統領の就任による大きな政治的転換となる年でした。当団体にとっては多くの新規事業が開始した年となりました。まず、3月にマニラ事務所を開設しました。事務所に併設したトレーニングスタジオでは、チカラプロジェクトの一つである「癒しのチカラ」として貧困層を対象にセラピストの育成を実施しました。オロンガボとマニラの「癒しのチカラ」双方で職業訓練（TESDA）の認証を受ける事ができました。これにより修了証にはTESDAのロゴが入る事になり、受講生の就業機会が増える事が期待されています。10月には、昨年採択されたJICA草の根パートナーシップ事業がスタート。NGOの実施する事業としては広範囲となるマニラ首都圏、中部ルソンという二つの地域で「ハウスペアレント能力強化研修」を実施していきます。また事業開始にあたり社会福祉開発省（DSWD）のジュディ・タギワロ大臣と調印式を実施しました。これにより、今後はより円滑にDSWDや関係機関との連携や事業実施が可能となります。予定にはなかったピサヤ・ミンダナオ地域のハウスペアレント研修もDSWD本省の予算で実施したいとの要望があり11月に実施することができました。当会の目的であるハウスペアレント能力強化研修の全国標準化に向けて一歩前進です。オロンガボ市においてはオロンガボ市議会の委員として

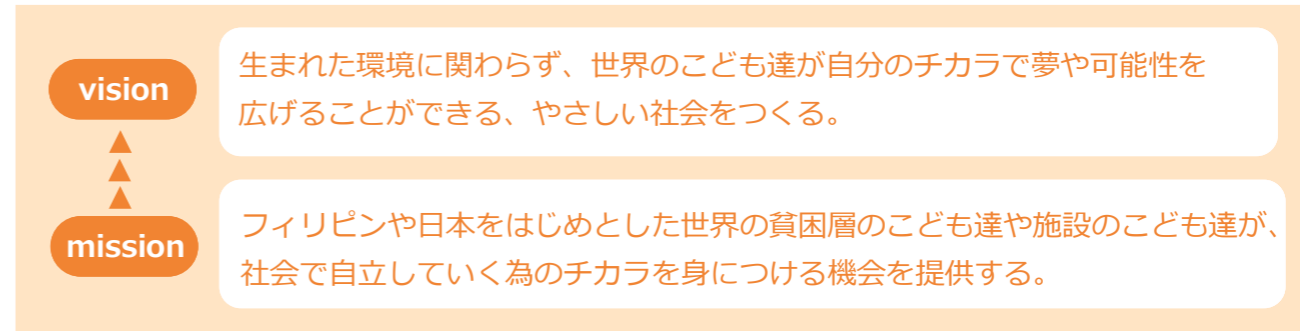
の認証を受ける事ができました。今後はこどもに関わる政策制定に関わる事ができます。また、11月にオロンガボで実施した当団体主催のバブルランには600名の市民の方が参加して下さいました。そのイベントで設けたステージでは、空手のチカラやダンスのチカラのこども達が日頃の練習の成果を発表することができました。日本では地域のこども達の学習支援教室「コ・ドリーム」がスタート。フィリピンでの活動の経験を活かして、当会だからこそできる日本のこども達へのアプローチをしていく事により、日本の社会にも必要とされる団体を目指していきます。海外ボランティアプログラムへの参加者もここ数年ではもっとも多くの方が参加して下さいました。今年一年間で当会の活動は大きく広がり、これまでよりも多くのこどもや貧困層の方達をサポート出来るようになりました。それはこれまでよりも大きな社会的責任がある事も意味しています。スタッフそれぞれの頑張りはもちろんですが、皆様のご支援・ご協力なくしてはこのこども達、そして社会の未来に関わる責任を果たす事は出来ません。世界は依然として貧困問題、環境破壊、紛争などの大きな問題を抱えています。私たちは自分たちに出来る範囲で、しっかりと出来る事を実施していきます。そして皆様と共に出来る事を増やし、当会自身の持つ可能性も上げていきたいと思っております。今後とも暖かいご支援をよろしくお願い致します。

NPO法人アクション 代表 横田宗

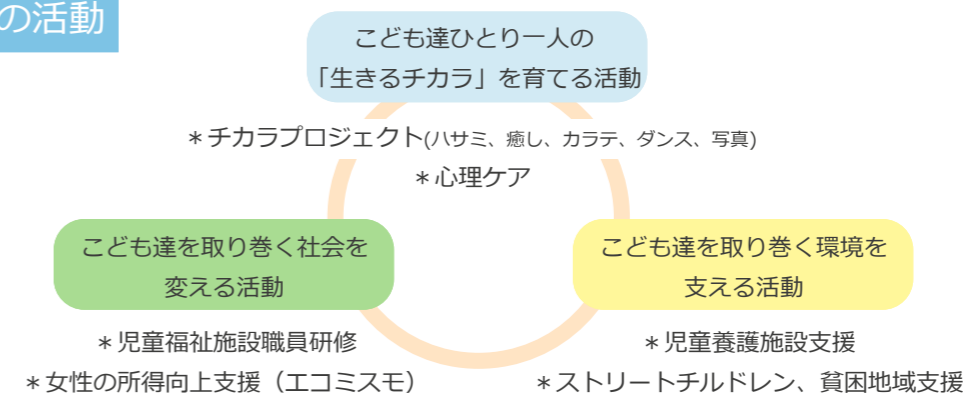
# 2016年活動計画

1994年、ピナトゥボ火山の噴火で被災した孤児院の修繕作業から始まったNPO法人アクションの活動は、児童養護施設やストリートチルドレンのための支援へと広がりました。アクションは現在、こども達への支援とこども達を取り巻く社会に対する活動を行っています。生まれた環境に関わらず、世界のこども達が自分のチカラで夢や可能性を広げることができるやさしい社会をつくるため、2016年は以下の活動計画に沿って活動を行いました。

## アクションの活動理念



## フィリピンでの活動



チカラプロジェクト	施設や貧困地域のこども達222名に対して、職業訓練としてハサミと癒しのチカラを実施し、情操教育としてダンス、カラテ、写真のチカラを実施することで、こども達が自分自身で自立に向かうチカラを付ける。
心理ケア	施設のこども達に対して30回の心理ケアプログラムを実施し、それぞれが心に抱える課題と向き合う。
児童福祉施設職員研修	中部ルソン地域とマニラ首都圏の計12~17施設の職員に対して研修を実施する。* JICA草の根パートナー事業
女性の所得向上支援	マニラとオロンガボ市にて、貧困地域の母親にフェアトレード製品を製作してもらい所得を向上することで、経済的貧困により家庭での養育が不十分なこども達を支援する。
児童養護施設支援	ジャイラホームとニニョスバグアサセンターにて施設の支援を行うと共に、ニーズ調査を行う。
ストリートチルドレン / 貧困地域支援	現地NGOタタッグと提携し、ストリートチルドレン向けの青空教室を実施する。

## 日本での活動

海外ボランティア	参加者150名を集め、国際協力への関心を高めると共にフィリピンのこども達にボランティア活動を実施する。
国際理解教育	武蔵野市教育委員会主催「土曜学校世界を知る会」や学校での授業を通してフィリピンへの理解を深める。
学習支援	経済的貧困を抱える日本のこども達に対して学習支援を実施し、勉強や体験学習を行う。
チカラプロジェクトinジャパン	日本の児童養護施設でのチカラプロジェクトの実施及び、日本の店舗に募金箱を設置する。



子ども達一人ひとりの「生きるチカラ」を育てる活動

# チカラプロジェクト

## 職業訓練と情操教育で 自立に必要なチカラをつける！

貧困地域で暮らす子どもやストリートチルドレン、児童養護施設で暮らす子どもの「生きるチカラ」を育てるチカラプロジェクトでは、職業訓練や情操教育を実施しています。子ども達が将来、社会で自立できるように、チカラプロジェクトを通して自分に自信を持てる体験を積み重ねる機会を提供しています。チカラプロジェクトでは、以下のプログラムを提供しています。

### 提供しているプログラム

<職業訓練>

ハサミノチカラ 美容師になるための知識や技術を身に付ける

癒しのチカラ マッサージ師になるための知識や技術を身に付ける

<情操教育>

空手のチカラ 物事を成し遂げる経験や、礼儀を身に付ける

ダンスのチカラ 自分を表現する方法や協調性を学ぶ

心のチカラ 子ども達が抱える心理的課題の解決を目指す



### ハサミノチカラ

開催場所：オロンガボ市・マニラ / 実施回数：42回

オロンガボ市とマニラでハサミノチカラアカデミーを開催しています。チカラスタジオinオロンガボでは、毎週土曜日に約3時間、ヘアカット等の練習を実施しています。

5月にはマニラとオロンガボの3期生の子ども達を含めた計18名に対して、日本人講師3名による合同ヘアカットトレーニングキャンプを実施しました。11月には当団体主催のチャリティイベント「バブルラン」にて、参加者に無料でヘアカットを行いました。また同月には、フィリピン全土のプロ美容師やメイクアップアーティストが技術を競い合う「ヘアアジア」というイベントに参加し、プロのスキルを生で見ることで、子ども達は刺激を受けていました。



### 癒しのチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：76回

美容系専門求人サイトリジョブ様の「咲くらプロジェクト」がスポンサーであるセラピスト養成プロジェクトも今年2年目に突入。2015年7月から無料マッサージ養成講座を地域の方々提供しています。指圧やオイルを使ったスウェーデン式マッサージ、フィリピンの伝統的なマッサージ等を学ぶ3か月間のトレーニングを終え、筆記と実技試験を合格した後に卒業証明書を受与されると、マッサージサロンで働くことができます。現在約30名の卒業生がマッサージの職に就いています。



### 空手のチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：410回

2014年に空手のチカラが始まった当時、参加者は全員が自分のジャージを着て練習に参加していました。しかし、現在では、昇級審査に合格し道着をもらうことができ、約7割の子どもが道着を着て日々の稽古に励んでいます。毎年5月に行われる、チカラプログラム参加者による発表会「チカラリサイタル」では、子ども達は日頃から練習している型を堂々と披露しました。また、7月に開催されたマニラでの空手大会には15名の子どもが出場し、その内1名が成人男性の部で2位に入賞することができました。そして年に2回実施される昇級審査では、多くの子ども達が昇級し、日々の練習の成果が表れた1年となりました。



### ダンスのチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：274回

流行りのアメリカンポップスからしっとりしたジャズダンスまで、子ども達の好きそうな曲を週1回教えています。5月は日本のプロの手話ダンスグループ「ハンドサイン」が各施設でレッスンを実施していただき、習ったダンスを披露するリサイタルも実施しました。11月は当団体主催のチャリティイベント「バブルラン」でも踊る機会がありました。このように、レッスン以外にも日頃の練習の成果を披露する機会も提供も作ることができました。



### 心のチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：14回

心理ケアと自立して生きていくに必要なチカラを身につけることを目標に、児童養護施設で実施している「心のチカラ」では、アクションの心理ケア担当スタッフが「ソーシャルスキル向上プログラム」を実施しています。図画工作、環境教育、料理教室等を通して、子ども達が楽しく自立に必要なチカラを身に付けることができるプログラムを実施しました。6月に2日間に渡って開催された運動会では、チーム対抗リレーや綱引き、プールでの借り物競争など、子ども達が盛り上がる方法でチームワークや協調性を学ぶことができました。今後も子ども達が楽しみながら「生きるチカラ」を身につけることができるアクティビティを提供すると共に、活動を通して心理ケアを実施していきます。



### [次年度に向けて]

全てのチカラプログラムで、今年度と同様の内容を実施予定ですが、次年度は一般財団法人日本国際協力システム（JICS）様の助成により、「心のチカラ」を児童養護施設の子ども達だけでなく、ハサミ・空手・ダンスのチカラに参加をしている貧困地域で暮らす子どもやストリートチルドレンに対しても実施します。それぞれのチカラプログラムをより充実させ、子ども達がより多くのチカラを身に付けられる機会を提供していきます。

事業内容：	子ども達への職業訓練及び情操教育で、生きるチカラを育む「チカラプロジェクト」
受益者層：	児童養護施設の子ども、貧困地域の子ども、ストリートチルドレン、貧困地域の大人
担当者：	帯川真智子、Esperas, Mara Ginarie A.、Matias, Adora D.



# 施設職員の能力向上

# こどもの自立支援

## 第2フェーズ・JICA草の根事業スタート

本事業は、当会がフィリピンで20年以上活動を行なう中で見えてきた課題について政策提言を行うと共に、児童養護施設のこども達を取り巻く環境が少しでも改善されるよう、フィリピンの行政機関を巻き込んで実施しているものです。今回は2012年～2015年に実施した、施設職員のための能力強化事業に続く事業として、マニラ首都圏と中部ルソン地域で活動を展開していきます。

## 児童養護施設の養育体制強化及び「ハウスペアレント研修規程」の提案

今回、初の事業実施となるマニラ首都圏では、前期事業で開発した施設職員向け能力強化研修を実施。こどもの養育に直接携わる施設職員に参加していただき、こどもの権利や関連法律などに関する知識、こどものハンドリング等日々の業務に役立つ技術の基礎を学んでいただきます。更に、本事業では全国規模の研修プログラムの確立を見据え、「ハウスペアレント研修規程」を社会福祉開発省の長官に提案していきます。10月に社会福祉開発省長官・JICA関係者を招いての調印式を実施。現在、新たにパートナーとなる関係機関や対象施設への表敬訪問・ネットワークづくりを行っています。



## マニラで研修・政策提言を実施（2016年10月～2019年8月）

- ・施設職員向け能力強化研修に関するオリエンテーション  
対象：社会福祉開発省本省担当者、マニラ首都圏地域事務所の研修担当者
- ・対象施設に対するベースライン調査・研修ニーズ調査の実施  
対象：マニラ首都圏にあるパートナー施設（10～15施設） ※施設数調整中（2016年12月末現在）
- ・ソーシャルワーカー向けマスタートレーナー研修  
対象：マニラ首都圏の施設ソーシャルワーカー（約60名）
- ・ハウスペアレント向け能力強化研修  
対象：マニラ首都圏の施設のハウスペアレント（約120名）
- ・「ハウスペアレント研修規程」の制定にむけた提言書の作成・社会福祉開発省長官へ提出

事業内容： 児童養護施設職員のための能力強化研修の実施とフィリピン全土での研修実施を目指した政策提言
受益者層： マニラ首都圏にある児童養護施設のソーシャルワーカー及びハウスペアレント
担当者： 横田 宗、戸塚 真希、フィリピン事務局スタッフ7名

## 児童養護施設のこども達の成長と自立を促進

第1フェーズの事業地であった中部ルソン地域では、前期事業でパートナーとなった社会福祉開発省の中部ルソン地域事務所と38の施設に再び働きかけ、一緒に事業を行います。今回は前期事業で能力強化研修を受けたソーシャルワーカーとハウスペアレントに対し、こどものためのアクティビティマネジメント研修を実施。更に、研修で学んだ内容を踏まえ、施設のこども達に向けたライフスキル向上のためのアクティビティを実施していきます。施設に入所しているこども達は、いつか必ず施設を出て自立しなければなりません。将来、こどもが施設を出て自立する際や家族のもとに戻る際に手助けとなるようなライフスキルの習得を目指します。



## 中部ルソン地域で研修を実施（2016年10月～2019年8月）

- ・38施設のこども達と施設職員に対し、ニーズ調査の実施  
対象：中部ルソンの施設のソーシャルワーカーとハウスペアレント（約100名）、こども達 約1,300名
- ・ライフスキルマネジメント研修  
対象：中部ルソンの施設のソーシャルワーカーとハウスペアレント（約100名）
- ・ライフスキル向上アクティビティ（フィナンシャルマネジメント、キャリアガイダンス、自己啓発、栄養学等）  
対象：中部ルソンの施設のこども達 約1,300名

### 【次年度に向けて】

【マニラ首都圏・中部ルソン共通】  
対象施設の方々や各機関の関係者を招待し、事業開始記念式典&オリエンテーションを実施。

【マニラ首都圏】  
新たにパートナーとなる施設への個別訪問・ネットワークづくりを継続。また、対象施設に対するベースライン調査・研修ニーズ調査、社会福祉開発省の担当者に向けた「施設職員向け能力強化研修」に関するオリエンテーションを順次行っていきます。更に、社会福祉開発省の担当機関と共に、前期事業で開発した研修教材の改訂作業を行ったうえで、ソーシャルワーカー向けマスタートレーナー研修及びハウスペアレント向け能力強化研修を実施していく予定です。

【中部ルソン】  
38施設のこども達と施設職員に対するニーズ調査及び施設職員へのライフスキルマネジメント研修を実施予定。

事業内容： 児童養護施設職員のための能力強化研修とこども達のためのライフスキル向上アクティビティの実施
受益者層： 中部ルソン地域にある児童養護施設のソーシャルワーカー・ハウスペアレント及びこども達
担当者： 横田 宗、戸塚 真希、フィリピン事務局スタッフ7名



児童養護施設のこども達を支援



地域のこども達を支援

# 児童養護施設支援

# ストリートチルドレン／貧困地域支援

## 心・体・教育の面で こども達の健全な育成をサポート

当団体が支援しているジャイラホームでは4歳から19歳の13名のこども達が生活をしています。創設者であるフィリピン人牧師ジョエル氏夫妻に加えて、4名のスタッフがこども達の日常のお世話をしています。また、社会福祉士によるこども達の心理ケアも行っています。春と夏には海外ボランティアを実施しており、多くの日本人ボランティアが施設修繕やこども達のためのイベント企画などの活動を行っています。

### 心の育成 (心理ケア・空手・ダンス)

ジャイラホームには貧困・虐待・育児放棄・孤児など様々な背景のこども達がやってきます。そんなこども達は、自己評価が低かったり、感情のコントロールが上手くできなったり、周りのひととコミュニケーションをとる力が不十分であったりと多くの問題を抱えています。当団体では、心理ケアやダンス・空手のレッスンを通して、こども達が目標に向かって努力し達成することによって自己を肯定していく力、自主性・協調性・社交性などのソーシャルスキルを学ぶ場を提供しています。

### 体の育成 (朝食支援)

こども達の成長には不可欠な食事の支援を通して、毎日元気に過ごすための健康な身体、友達と一緒に走りまわって遊ぶ体力、学校で勉強を頑張るエネルギーを提供しています。2016年は学生団体YELL様が行ってくださった朝食改善プログラムにより、1年間、こども達はバランスのとれた朝食をとることができました。それにより、13名中約半数の計6名のBMIが改善されました。

### 学力の育成 (教育支援)

教育はこども達の可能性と選択肢を広げる重要なもの。児童養護施設で暮らすこども達も様々な将来の夢を抱えています。今年度はJEC連合様の支援により、ノートや鉛筆、かばんや傘といった学用品を新年度である6月に配布することができました。ジャイラホームのこども達は頂いた学用品を使い、学校での勉強に励むことができました。このような学用品支援を通して、こども達が夢の実現に向かって一歩近づくことができるよう応援しています。



### [次年度に向けて]

2017年は心理ケア、ダンス・空手のレッスンを引き続き行っていくと共に、新年度のための学用品支援、海外ボランティアでの施設修繕、こども達のためのイベント企画を行う予定です。施設で暮らすこども達の抱える問題を少しでも解決し、こども達が健全な心と体を持って成長できるようなサポートによって、こども達の笑顔と元気につながる活動に取り組んでまいります。

事業内容：児童養護施設支援（チカラプロジェクト、朝食支援、教育支援）
受益者層：児童養護施設に入所してるこども13名
担当者：帯川真智子、山本浩平、Matias, Adora D.

## 奨学金、給食支援、青空教室で こども達の健全な育成をサポート

2005年よりストリートチルドレン・貧困地域支援、児童の権利の啓発等の活動を行っているフィリピンのNGO・タタッグ【Tayo Ang Tinig At Gabay(TATAG) = 私達自身が声であり道である】と提携し、こども達への支援を行っています。貧困であるために十分な教育を受けることができないこども達をサポートするため、当会では教育支援を中心に活動を展開しています。



<タタッグの現状>

現在もタタッグはメインスポンサーが見つからず、活動がほぼできない状態が続いています。就学前児童のための学習教室（Early Child Care Development Center）は地域の母親組織によって地域毎に運営が行なわれています。

### 青空教室の実施、給食支援

支援者の皆様からの「こどものための活動」への指定寄付を活用して青空教室を再開し、5月～12月に15回にわたり活動を実施しました。活動には、毎回15～30名のこども達が参加しました。チームワークや協調性、こどもの権利、地域のために自分ができること等を考え、学びました。活動後は給食を提供し、少しでもこども達が栄養のある食事を摂取できるようにサポートしました。こども達は常に笑顔で完食していました。12月4日には日本からACTION Youthのメンバーが寄付を持って渡比してくれ、50名のこども達のためにクリスマスパーティーとプレゼントを届けてくれました。

た。こども達は新学期に合わせて新しい学用品を手にし、学校へ通い始めることができました。

### 9名のこども達への奨学支援

今年度もGrowing People's Will様と3名の個人スポンサーの皆様にご支援をいただき、9名（小学生：1名、高校生：8名）への奨学支援を行いました。こども達には制服・学用品・バッグ・靴等の配布と交通費が支給されました。今年度は学校・家庭訪問を通じてのモニタリングを継続し、更に個人面談を定期的に行うことで思春期に入るこども達への個別対応を強化しました。



### 107名へ学用品支援を実施

日本化学エネルギー産業労働組合連合会(JEC連合)様に引き続きご支援をいただき、107名のストリートチルドレンと貧困地域のこども達に向けて学用品を配布しまし

### [次年度に向けて]

今年度も個人及び企業の皆様にご多大なご支援をいただいたことで、こども達に直接裨益する活動を多く実施することができました。来年度も支援者の皆様にご協力をいただき、教育支援を中心に行ってまいります。青空教室と給食支援については、来年度初旬にタタッグと話し合いの機会を持ち、今後のタタッグの展望や団体方針を把握したうえで、当会としての支援内容・方法を決定する予定です。

事業内容：奨学支援、給食支援、青空教室等の活動を通じてストリートチルドレンと貧困地域のこども達をサポート
受益者層：オロンガボ市内のストリートチルドレン及び貧困地域のこども達
担当者：戸塚 真希、山本 浩平

女性の所得向上支援（マニラ）

お菓子の袋を再利用した商品で  
フィリピンのお母さん達の所得を向上

2009年に開始した本事業は、子ども達が健全に成長できる家庭環境を整えることと、街の美化を目的に、女性達に職業を提供しています。お菓子の袋を再利用した製品「エコミスモ」を、フィリピンの首都マニラにある貧困地域のマラボン市で製作し日本で販売することで、製作者であり母親でもある女性達に適切な賃金を支払っています。現在は、5名の女性が製作に携わっています。開始当初よりも製作者の人数は減ってしまいましたが、少数精鋭で質の高い商品を製作できるようになりました。



2016年の販売実績

- 常設店
  - ・ sari sari (東京都武蔵野市)
  - ・ SORA (東京都目黒区)
  - ・ Yours (福島県郡山市)
  - ・ Curely (愛知県名古屋市)
  - ・ ヘアーデザインキュレ (大阪府枚方市)
  - ・ SAMSON&DELILA (石川県金沢市)
  - ・ マスダ美容室 (鳥取県米子市)
- ・ AUBE (沖縄県豊見城市)
- ・ サロンドジェミニ (鳥取県米子市)
- ・ color studio air (鳥取県米子市)
- ・ セカンドair (鳥取県米子市)
- ・ AUBE (沖縄県豊見城市)
- ・ Yours (福島県郡山市)
- 期間限定取扱店
  - ・ 池袋ロフト (2016年5月29日～6月19日)

[次年度に向けて]

2015年に全製品のリニューアルを行ったエコミスモですが、2016年2月にwebサイトのリニューアルを行いました。スマートフォンからも見やすいレイアウトに変更したことで、web注文は昨年度の3.7倍の売り上げを出すことができました。次年度もwebサイトの強化に加え、取り扱い店舗の拡大やイベント販売の回数を増やすことで、売り上げアップを目指します。また、フィリピンでかかる管理費などを見直し、エコミスモの黒字化を目標に活動を行っていきます。

事業内容： フェアトレード商品の製作及び販売
受益者層： マニラ首都圏マラボン市に暮らす母親世代の女性
担当者： 横田宗、長田幸子、Yabut, Grace G.

女性の所得向上支援（オロンガポ）

お母さん達が主体となって  
商品製作ができるよう目指しています

2009年に開始した本事業では、オロンガポ市内の貧困地域の女性たちへの仕事づくりを行なっています。本事業に関わる女性たちはほとんどが子どもを抱えたお母さん達。そこで、「自分たちのスキルを活かせる仕事」、「自宅での作業が可能であること」等を考慮し、これまでアクセサリーやバッグ、デコサンダル等の商品製作を提案してきました。これらの商品を製作することで、対価を得ることができます。現在は、6名の女性が製作に携わっています。商品製作に関わる女性たちのバックグラウンドは様々ですが、「子どもの学費を稼ぎたい」という共通した思いがあります。

出来上がった商品は、日本国内にある当会のチャリティショップやイベント、現地を訪れたビジターの方々に向けて販売を行なっています。

国内ブランド『Feliz』の商品  
2,014点を製作

今年度も国内のフェアトレード&エシカルアクセサリーのブランド「Feliz」より業務委託を受け、ピアスやネックレス、ブレスレット等の製作を行いました。今年度は前年比で49.3%増のオーダーに対応しました。それに比例し、お母さん達の収入も大幅にアップしました。

Feliz代表のワークショップ

新商品の仕様に合わせて技術を身につけるため、今年度はFeliz代表の柿本様に2回、現地にお越しいただき、アクセサリー製作技術向上のためのワークショップを実施しました。「新しい知識や技術を身につけることがとにかく楽しい!」とお母さん達にも大好評でした。

[次年度に向けて]

昨年度からのFelizとの業務提携により、本事業は今年度も大きく業績を伸ばすことができました。一方、増加する商品の種類・製作数に対応するための人員配置が大きな課題となりました。今年度は担当者を増やして臨み、フィリピン国内での販売にも挑戦する等、様々な取り組みも行いました。来年度は、今年度の製作数とお母さん達の収入額を維持しながら、課題として残っている商品やマテリアルの在庫管理等の仕組みづくりをお母さん達と共に行っていきます。

事業内容： 女性たちの仕事づくりを目的とし、フェアトレード商品を製作・販売
受益者層： 中部ルソン地域サンバレス州オロンガポ市に暮らす貧困地域の女性
担当者： 戸塚 真希、Domingo, Jasmin Eve C.



オリジナル商品  
258点を製作・販売

今年度は新たに2名のお母さんを迎え、5名のお母さんと共にレジ袋を利用してつくるバッグやポーチ、雑誌などの紙を再利用してつくるピアス等のアクセサリー、ビーチサンダルにデコレーションするデコビーサン等の商品の製作を行いました。また、今年度は初めてフィリピン国内のイベント等での販売にも挑戦しました。

海外ボランティア体験事業

春季・夏季の2シーズンで  
延べ113名の参加者をフィリピンへ派遣

昨年度、プログラム実施20年の節目を迎えた国際ボランティア体験事業。21年目となった本年度も例年同様、孤児院ボランティア、ストリートチルドレンボランティア、短期インターンプログラムを開催したほか、夏季からは新たに『ダンスのチカラ』の子ども達と交流を深める、ダンス交流ツアーを開催しました。参加者数は春と夏の計10日程で113名(前年比41名増)にのぼり、春夏共ににぎやかなプログラム開催となりました。初開催となったダンス交流ツアーでは、ダンスのチカラに参加している子ども達へ振り付け指導&ショッピングモールでフラッシュモブに挑戦しました。チカラプロジェクト関連のプログラム実施はこのダンスツアーが初めて。初めて踊る振り付け、そしてフラッシュモブという特別な体験に、子ども達は本当に楽しそうな表情を見せていました！施設内でボランティアワークを行なう孤児院ボランティアでは、今年度は春季に倒壊した壁の修繕ワーク、夏季に子ども達の遊び道具作りのワークを実施しました。この1年で年齢の低い子ども達が多く入所してきたジャイラホーム。入所したばかりの子ども達にとっては楽しい時間になったと共に、大人に思い切り甘えられたかけがえのない時間となりました。



2016年開催プログラム一覧

- 孤児院ボランティア
  - ①2月20日～2月29日 8名
  - ②3月3日～3月16日 7名
  - ③8月15日～8月22日 19名
  - ④9月5日～9月14日 8名
- ダンス交流ツアー
  - ①8月3日～8月8日 6名
- ストリートチルドレンボランティア
  - ①3月1日～3月8日 18名
  - ②8月16日～8月23日 16名
  - ③9月6日～9月13日 12名
- 短期インターンプログラム
  - ①2月10日～2月17日 6名
  - ②8月24日～8月31日 13名
- 学生団体/有志グループ
  - スタディツアー受入
  - ・学生団体YELL
  - ・亜細亜大学ボランティアセンター
  - ・国際協力学生団体結～yui
  - ・ハイエック
  - ・ACTION Youth

[次年度に向けて]

プログラムの実施期間は1プログラムあたり6日間～14日間と短いです、その1つ1つの出会いと経験が子ども達にとってはかけがえのないものであり、子ども達の人生の糧になっている事をプログラムを通して実感しています。2017年度も広報等やるべき事にしっかりと取り組み、参加者の皆さんと共に充実したプログラムを実施することで、子ども達に少しでも多く楽しい時間と愛情を届けられればと考えています。まずは2017年2月3月に実施予定の春季プログラムから盛り上げていけるよう頑張ります！

事業内容：国際ボランティア体験事業
受益者層：フィリピンの児童養護施設や貧困地域の子ども達、ストリートチルドレン/日本の青少年
担当者：畷尾知佳、戸塚真希、帯川真智子、山本浩平

算数教室と居場所スペースで  
子ども達の「生きるチカラ」を育む

2006年に武蔵野市境南町に事務所を移転して以来、事務所兼チャリティショップとして、フェアトレード商品やフィリピン雑貨を販売するお店を運営してきました。2016年11月からは、このチャリティショップを縮小し、子ども達の「生きるチカラ」を育む算数教室と居場所スペースとして「CO-DREAM (コ・ドリーム)」をオープンしました。2006年から、お店には地域の子ども達がたくさん遊びに来ていましたが、フィリピンの子ども達と同じように貧困や虐待等様々な課題を抱える子ども達に対して、アクションだからできる活動を実施していきたいと思っています。



本事業を始めるにあたり、事務所の改装費や当面の運営資金が不足していましたが、6月にクラウドファンディングを実施し、141名の方から合計2,089,829円のご寄付を頂き、事業をスタートすることができました。改装は地域の子どもやボランティアの方々が協力してくださり、子ども達にとって居心地のいい空間をみんなで作ることができました。今後も、多くの方にボランティアとして関わっていただくことで、みんなで子ども達を支えていきたいと思っています。



コ・ドリームの活動内容

- 算数教室
  - 算数と学習指導を専門で扱う「でき太くんの算数クラブ」と提携し、プリント学習を実施。※月謝優遇制度あり
- 居場所スペース
  - 算数教室が開催されない曜日は、算数教室の生徒以外でも利用できる無料の居場所スペースとして開放。
- レンタルスペース
  - 日中は子ども達に利用がないため、一般の方向けにレンタルスペースとして貸し出しを実施。

[次年度に向けて]

2016年11月に正式オープンした「コ・ドリーム」の算数教室には、現在数名の子どもが通い始めています。また、居場所スペースへも少しずつ子ども達が来るようになってきました。今後は、アクションが「コ・ドリーム」を実施する目的である「子ども達の生きるチカラを育む」ための場所となるよう、算数教室や居場所スペースの運営に加えて、週末の子ども向けワークショップも実施していく予定です。

事業内容：日本の子ども達の「生きるチカラ」を育むためのプロジェクト
受益者層：武蔵野市及び近隣地域の小学生
担当者：長田幸子、五味力(理事)

コ・ドリーム (算数教室/居場所スペース)



# 国際理解教育／講師派遣

## 土曜学校「世界を知る会」 講座全体のコーディネートを担当

武蔵野市内の小学4~6年生を対象に実施している講座、土曜学校「世界を知る会」が2016年9月~12月に全5回実施されました。アクションでは2005年より武蔵野市からの委託を受け、本講座の日本とフィリピンの小学生同士の交流部分のコーディネートと講座実施時のボランティア派遣を行なってきました。2016年度からは講座全体の運営コーディネートも担当することになり、本年度は新体制になってから初の講座実施となりました。世界を知る会では毎回ゲスト講師をお招きし、各回のテーマに沿った内容で講座を実施しています。最終回ではフィリピンの小学生とスカイプを通じて自己紹介をしたりゲームをして交流を深めました。日本の子ども達にとってもフィリピンの子ども達にとっても、貴重な異文化交流の機会となりました！



《2016年度の実施講座》

- ①世界を丸ごと見てみよう(世界がもし100人の村だったらWS)
- ②世界のことばに会おう！(ことばに関するゲーム等)
- ③世界の人々と会おう！(留学生の皆さんによるお国の紹介)
- ④世界の人々と分かり合い、助け合う方法を考えよう！  
(元青年海外協力隊員による現地での体験談)
- ⑤フィリピンの小学生とテレビ電話で交流しよう！

## 中学校・高校・大学へ講師を派遣

アクションでは中学校・高校での授業や、大学の講義・講演への講師派遣を行なっています。本年度派遣を行なった学校は以下の通りです。現地での活動内容や自分達の活動経験についてのお話、ワークショップの実施等、ご希望やリクエストに応じて授業内容を検討しています。

《2016年度 講師派遣一覧》

- ・埼玉県蓮田市立蓮田南中学校
- ・東京都立杉並総合高校
- ・亜細亜大学
- ・青山学院女子短期大学こども学科
- ・群馬県立県民健康科学大学

### [次年度に向けて]

「世界を知る会」は、次年度も引き続きアクションで運営全体のコーディネートを担当する予定となっています。本年度の実施内容は前年度までの内容をほぼそのまま引き継ぐ形での実施であった為、次年度は本年度の反省を踏まえた上で、新たな要素も組み込みながら、より充実した講座を実施していけるよう講師の皆さんと共にプログラムをつくりあげていきたいと思ひます。また、各学校への講師派遣も引き続き積極的に取り組んでいく予定です。本年度は依頼ベースの講師派遣であった為、次年度以降はこちらからの発信にも力を入れていきたいと考えています。

事業内容：土曜学校「世界を知る会」の実施・運営、学校への講師派遣
受益者層：武蔵野市の小学4~5年生、日本国内の学生
担当者：畝尾 知佳、戸塚真希、山本浩平

## 日本の児童養護施設へ ボランティアスタッフを派遣

当団体では月に1度、過去の海外ボランティアプログラム参加者に呼びかけ、日本の児童養護施設で生活することも達と休日にひたすら一緒に遊ぶ『遊びボランティア』の派遣を行なっています。

本年度は5月~12月の間の計6回、東京都三鷹市の児童養護施設へ遊びボランティアの派遣を行ないました。施設では、フィリピンの孤児院と同じように様々な事情で家族と暮らすことのできない子ども達が保護されています。各回2~5名のボランティアスタッフが遊びボランティアに参加し、子ども達が楽しい休日のひと時を過ごせるように活動を実施しました。

また、11月には東京都立川市にある児童養護施設の発表会で、子ども達にヘアメイクをするボランティア活動も行いました。子ども達にとって「ヘアメイクをしてもらおう」という体験は舞台上上がる事と同じくらい特別な体験です。初めこそ緊張していた子ども達でしたが、いざヘアメイクが始まると「目の上をもっとキラキラにしてほしい」「ピンク色の口紅をぬりたい」など、とても嬉しそうでした。子ども達の期待に満ちた目に緊張するスタッフでしたが、無事ヘアメイクを終え舞台上でキラキラ輝く子ども達の笑顔を見る事ができ、全員でほっとした&温かい気持ちになった発表会となりました。



## 2016年のボランティア派遣実績

- ・5月1日：遊びボランティア 5名
- ・6月26日：遊びボランティア 5名
- ・7月24日：遊びボランティア 3名
- ・10月30日：遊びボランティア 3名
- ・11月20日：発表会でのヘアメイクボランティア 5名
- ・12月18日：遊びボランティア 2名

### [次年度に向けて]

次年度も引き続き、過去の海外ボランティア参加者に呼びかけながら定期的に施設へのボランティア派遣を行なっていきたいと考えています。1月以降は三鷹市の児童養護施設だけでなく、発表会でヘアメイクボランティアを行なった立川の児童養護施設でも遊びボランティアの派遣を行なう予定です。フィリピンだけでなく、日本でも様々な事情で家族と生活することが出来ない子ども達や保護・支援を必要としている子ども達が沢山います。日本の児童養護施設へのボランティア派遣を定期的に行うことで、海外ボランティア参加者の皆さんにフィリピンだけでなく日本の児童福祉にも目を向けてもらえる機会になればと思っています。

事業内容：日本の児童養護施設へのボランティア派遣
受益者層：日本の児童養護施設で保護されている子ども達
担当者：畝尾 知佳

# ボランティア派遣